

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成25年12月12日 (2013.12.12)

【公開番号】特開2011-217841 (P2011-217841A)

【公開日】平成23年11月4日 (2011.11.4)

【年通号数】公開・登録公報2011-044

【出願番号】特願2010-87994 (P2010-87994)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【 F I 】

A 6 3 F 7/02 3 3 4

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成25年10月25日 (2013.10.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

所定の遊技を行うことが可能な遊技機であって、

遊技機に設けられた開閉扉を開放状態とすることにより操作可能となり、操作に応じて操作信号を出力する初期化操作手段と、

制御を行う際に発生する制御データを記憶する制御データ記憶手段と、

遊技機への電力供給が停止していても前記制御データ記憶手段の記憶内容を所定期間保持させることが可能な記憶内容保持手段と、

電力供給が開始されたときに、前記初期化操作手段から前記操作信号が入力されているか否かを判定する操作信号判定手段と、

前記操作信号判定手段によって前記操作信号が入力されていると判定されたときに、前記開放状態であるか否かを判定する開放状態判定手段と、

前記開放状態判定手段によって前記開放状態であると判定されたことにもとづいて、前記制御データ記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化処理実行手段と、

前記開放状態判定手段によって前記開放状態でないと判定されたことにもとづいて、前記初期化処理実行手段による前記初期化処理の実行を制限する初期化制限手段と、を備えた

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

本発明は、所定の遊技を行うことが可能なパチンコ機やスロット機、パロット機などの遊技機に関する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 8 】

本発明による遊技機は、所定の遊技を行うことが可能な遊技機であって、遊技機に設けられた開閉扉（例えば、機構板を含む遊技枠）を開放状態とすることにより操作可能となり、操作に応じて操作信号を出力する初期化操作手段（例えば、クリアスイッチ 9 2 1）と、制御を行う際に発生する制御データを記憶する制御データ記憶手段（例えば、R A M 5 5）と、遊技機への電力供給が停止していても制御データ記憶手段の記憶内容を所定期間保持させることが可能な記憶内容保持手段（例えば、バックアップ電源としてのコンデンサ 9 1 6）と、電力供給が開始されたときに、初期化操作手段から操作信号が入力されているか否かを判定する操作信号判定手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 におけるステップ S 7 を実行する部分）と、操作信号判定手段によって操作信号が入力されていると判定されたときに、開放状態であるか否かを判定する開放状態判定手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 におけるステップ S 7 a を実行する部分）と、開放状態判定手段によって開放状態であると判定されたことにもとづいて、制御データ記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化処理実行手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 におけるステップ S 7 a で Y のときにステップ S 1 0 に移行してステップ S 1 0 ~ S 1 4 を実行する部分）と、開放状態判定手段によって開放状態でないと判定されたことにもとづいて、初期化処理実行手段による初期化処理の実行を制限する初期化制限手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 において、ステップ S 7 a で N のときにステップ S 7 b を実行したあと、そのままループ処理に移行し、ステップ S 1 0 ~ S 1 4 を実行しないようにする部分）と、を備えたことを特徴とする。そのような構成により、不正に初期化処理が実行されることを防止することによって、不正行為を防止することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 0 】

次に、パチンコ遊技機 1 の裏面の構造について図 3 を参照して説明する。図 3 は、遊技機を裏面から見た背面図である。図 3 に示すように、パチンコ遊技機 1 裏面側では、演出表示装置 9 を制御する演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が搭載された演出制御基板 8 0 を含む変動表示制御ユニット、遊技制御用マイクロコンピュータ等が搭載された遊技制御基板（主基板）3 1、音声出力基板 7 0、ランプドライバ基板 3 5、および球払出制御を行う払出制御用マイクロコンピュータ等が搭載された払出制御基板 3 7 等の各種基板が設置されている。なお、遊技制御基板 3 1 は基板収納ケース 2 0 0 に収納されている。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 5 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 5 1 】

払出制御用マイクロコンピュータ 3 7 0 には、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 とシリアル通信で信号を入出力（送受信）するためのシリアル通信回路 3 8 0 が内蔵されている。この実施の形態では、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 と払出制御用マイクロコンピュータ 3 7 0 とは、シリアル通信回路 5 1 1、3 8 0 を介して、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 と払出制御用マイクロコンピュータ 3 7 0 との間の接続確認を行うために、一定の間隔（例えば 1 秒）で払出制御コマンド（接続確認コマンド、接続 0

K コマンド) をやり取り (送受信) している。例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 は、シリアル通信回路 511 を介して、一定の間隔で接続確認を行うための接続確認コマンドを送信し、払出制御用マイクロコンピュータ 370 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 からの接続確認コマンドを受信した場合、その旨を通知する接続 OK コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ 560 に送信する。また、例えば、入賞が発生した場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 は、払い出すべき賞球個数を示すデータを賞球個数コマンドの下位 4 ビットに設定し、当該設定がなされた賞球個数コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ 370 に送信する。そして、払出制御用マイクロコンピュータ 370 は、賞球個数を受け付けたことを示す賞球個数受付コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ 560 に送信する。さらに、払出制御用マイクロコンピュータ 370 は、賞球払出動作が終了すると、賞球終了を示す賞球終了コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ 560 に送信する。なお、払出制御用マイクロコンピュータ 370 は、賞球払出動作を終了するまでの間、一定の間隔で賞球準備中コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ 560 に送信する。また、所定のエラー (球貸し、満タン、球切れなどのエラー) が発生した場合には、エラーの内容を示すデータを、接続 OK コマンドや賞球準備中コマンドの下位 4 ビットを異ならせることにより設定し、当該設定がなされた接続 OK コマンドや賞球準備中コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ 560 に送信する。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 と払出制御用マイクロコンピュータ 370 におけるシリアル通信による具体的な信号のやり取りについては、図 52 ~ 図 59 において詳述する。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0087

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0087】

プログラム管理エリアに記憶される機能設定 K F C S は、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 におけるウォッチドッグタイマ (W D T ; Watch Dog Timer) の動作設定や、各種機能兼用端子の使用設定を示す。図 12 (B) は、機能設定 K F C S における設定内容の一例を示している。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0227

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0227】

ステップ S 1002 にて読出値が “000” と判定された場合には (ステップ S 1002 の Y)、定常設定時間を既定の固定時間に設定する (ステップ S 1003)。ここで、定常設定時間は、セキュリティ時間のうち、パチンコ遊技機 1 におけるシステムリセットの発生等にもとづくセキュリティチェック処理の実行回数 (遊技制御用マイクロコンピュータ 560 がセキュリティモードとなる回数) に関わりなく、一定となる時間成分である。また、固定時間は、セキュリティ時間のうち、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 の仕様などにもとづいてあらかじめ定められた不変時間成分であり、例えばセキュリティ時間として設定可能な最小値となるものであればよい。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0284

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0284】

そして、CPU 56 は、所定時間（例えば 4 ms）ごとに定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ 560 に内蔵されている CTC のレジスタの設定を行うタイマ割込設定処理を実行する（ステップ S 16）。すなわち、初期値として例えば 4 ms に相当する値が所定のレジスタ（時間定数レジスタ）に設定される。この実施の形態では、4 ms ごとに定期的にタイマ割込がかかるとする。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0351

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0351】

ステップ S 5109 における演算結果が 0 でなければ（ステップ S 5110 の N）、すなわち、検査対象のスイッチの検出信号がオン状態であれば、CPU 56 は、ポインタが指す賞球コマンド出力カウンタの値を 1 加算する（ステップ S 5111）。ただし、CPU 56 は、加算の結果、賞球コマンド出力カウンタの値に桁上げが発生した場合には、賞球コマンド出力カウンタの値を 1 減算し元に戻す（ステップ S 5112，S 5113）。そしてステップ S 5114 の処理に移行する。